

## 市内河川の航行ルールの改定について

## ○ 検討経過と、今後の流れ

平成 24 年 9 月～ 「河川水上交通の安全と振興に関する協議会」（以下「協議会」）幹事会及び検討ワーキングにオブザーバとして参加し、桜ノ宮関係団体から伺ったご意見をもとに、現行ルールの問題点について意見を述べた（計 6 回）

平成 25 年 2 月 20 日 協議会幹事会において改定案了承

3 月末以降、当面（25 年度の 1 年間）は「改定案」として運用し、問題点があれば引き続き検討。

インターネットホームページで意見募集も行う。

概ね 1 年後、正式な改定ルールとして施行予定。

## ○ 「改定案」の主な内容

## ① 「非動力船と動力船が行き会う場合の動力船航路優先原則」の撤廃

原則として非動力船が優先。

ただし、「特定船舶優先区域」（寝屋川水域、堂島川の銚流橋・大江橋間、土佐堀川の梅檀木橋・肥後橋間）に限っては、川幅が狭いうえ、橋げたが低く、橋脚間も狭いことから、大型動力船の航路が制限されるため、大型動力船が優先。

特定船舶優先区域 の順位・船種	第 1 位	第 2 位	第 3 位	第 4 位	第 5 位
	作業船	動力船 (土砂運搬船)	動力船 (旅客船等)	手漕ぎボート	モーターボート 水上オートバイ

## ② 「迷惑運転・危険運転の禁止」規定の新設

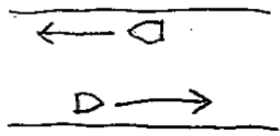
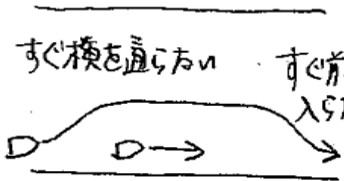
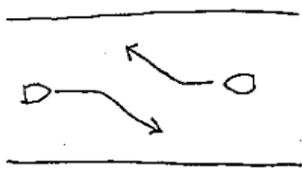
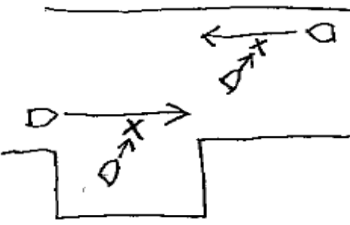
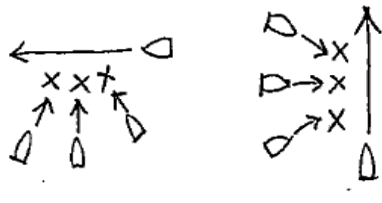
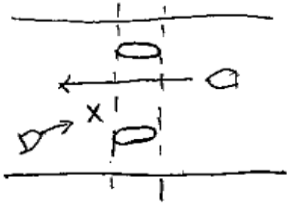
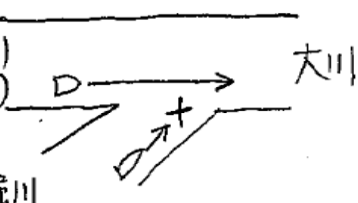
蛇行、急発進、急加速、急回転、高速航行による波による危険、騒音による迷惑の防止。

## ③ 通航方法のルールの手漕ぎボートへの適用（次頁参照）

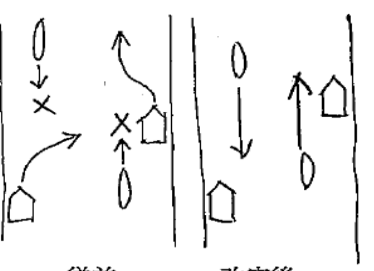
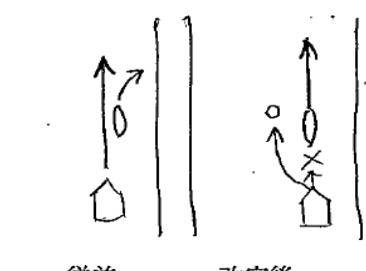
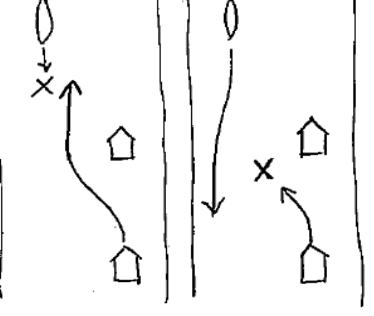
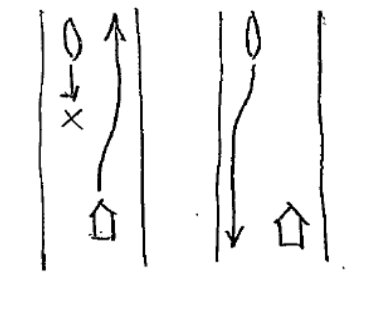
## ④ 存在認識の方法の具体化

- ・見通し困難な水域で動力船の衝突回避動作が不明確な場合は、笛等により合図を行う。
  - ・夜間航行の場合は、十分な照度を有する照明を付け、笛等を併用して、存在認識させるよう努める。  
(照明の例) 発光ジャケット、300m 程度先からでも明確に視認できる LED ライトなど
- ※ 笛＝ホイッスルを携帯し、危険を感じた場合には吹けるようにしておく。

【通航方法のルール】

<p>右側航行</p>		<p>他船舶、工作物への支障を与えない</p>	<p>禁止例) 大きな曳き波で航行 高速航行、船台・河岸・水遊びへの支障</p>
<p>追い越し船の追い越される船への配慮</p>	<p>すぐ横を通らぬ すぐ前に入らぬ</p> 	<p>行き会う場合に針路を右に転じる</p>	
<p>河道通航船の進路優先</p>		<p>互いに進路を横切る場合に右舷側に見る船舶が避ける</p>	
<p>下流に向けて通航する船の優先</p>	<p>下流</p>  <p>上流</p>	<p>本川通航船の支派川通航船への優先</p>	<p>(例) 堂島川(本川) 大川 土佐堀川</p> 

※従来と異なるケース (例)

<p>動力船が離岸・着岸する場合</p> <p>○ 手摺りポート □ 動力船</p>	 <p>従前 改定後</p>	<p>航路が重複する場合</p>	 <p>従前 改定後</p>
<p>動力船が浅瀬や他の船の存在で進路を右に転じることができない場合</p> <p>〔可能な範囲〕その回避は必要</p>	 <p>従前 改定後</p>	<p>互いに危険回避を行ってもなお衝突のおそれがある場合</p>	 <p>従前 改定後</p>

※上記は例ですが、そもそもそのような状況に至らないよう、他の船舶の動きをよく見て安全な航路確保に努めることが重要です。